

関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会設立趣旨

東日本大震災を契機に、東京一極集中の脆弱性が再認識されたところであり、大規模災害等のリスクを分散し、双眼型の国土構造を構築するには、関西を中心に四国や九州など西日本が一体となって発展していくことが重要である。

また、日本の成長、国際競争力の強化には、成長著しいアジアの活力を西日本全体に取り込むことが必要であることから、関西国際空港の機能強化や大阪都心と関空を結ぶ高速交通アクセスの整備を図るとともに、西日本全体をつなぐ高速交通インフラの整備が重要である。

さらに、西日本の大動脈である山陽新幹線には、代替機能を担う高速鉄道網がないことから、大規模災害等に備えたリダンダンシーの確保や多軸型の強靱な国土の形成の観点から高速鉄道網の多重化が重要である。

これらを実現するには、大阪都心と関空を結ぶ高速交通アクセスをはじめ、大阪から、紀淡海峡などを経て、四国、九州へと西日本全体をつなぐ四国新幹線や大阪湾を囲む関西大環状道路などの高速道路の整備が肝要である。

国土強靱化の推進に向けた議論が高まっている今日、高速交通インフラ整備の意義を共有する関係府県が協力しつつ、関西、四国、九州の地域間の交流を拡大する取り組みを積極的に進めることを前提としながら、現在整備が進められている関西大環状道路、大阪都心と関空を結ぶ高速交通アクセスの早期整備、さらに紀淡海峡ルート、四国新幹線の実現に向けて、「関空・紀淡・四国高速交通インフラ期成協議会」を設立するものである。